

EU Indicators

発表日: 2022 年 2 月 2 日 (水)

欧州経済指標コメント: 1月ユーロ圏消費者物価

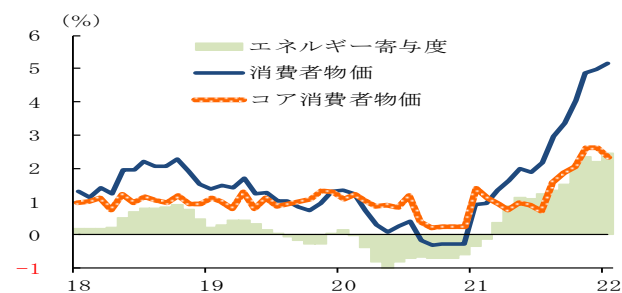
～物価上振れで問われるECBの政策判断～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部

主席エコノミスト 田中 理 (Tel: 03-5221-4527)

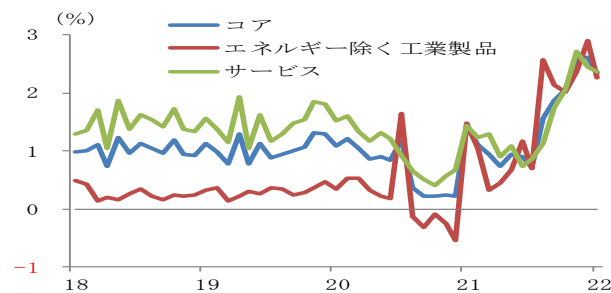
- 1月のユーロ圏の消費者物価の速報値は前年比+5.1%と、前月の同+5.0%から上昇率が一段と加速し、統計開始以来の過去最高を更新した。速報段階で入手可能な内訳は、前月と前々月に過去最高を更新したコア物価（変動の大きい食料・アルコール飲料・たばこ・エネルギーを除く）が前月：同+2.6%→今月：同+2.3%に鈍化した一方、エネルギー価格が同+25.9%→同+28.6%に、食料・アルコール・たばこ価格が同+3.2%→同+3.6%に加速し、全体を押し上げた。
- 今月からは前年比でみたドイツの付加価値税率変更による押し上げが剥落するため、ユーロ圏の全体・コア計数ともに上昇率が鈍化に向かうとみられていたが、エネルギー価格の上昇加速の影響が上回り、ヘッドライン計数は一段と上振れした。今月から適用される物価指数作成時の費目別ウェイトや供給制約の長期化も物価の押し上げにつながった模様。エネルギー価格による押し上げは、既報のドイツやスペインの物価統計で確認された通り。スペインではコア物価の上昇率も加速しており、現時点で詳しい内訳は不明だが、価格転嫁の動きが広がってきたかどうかを精査する必要がある。速報段階で入手可能なコア物価の内訳は、エネルギーを除く工業製品価格が同+2.9%→同+2.3%に鈍化した一方で、サービス価格が同+2.4%→同+2.4%で不変。慎重な緩和縮小姿勢を堅持するECBは従来、1月以降のインフレ率が鈍化に向かうとの見方を表明してきた。足元の物価上振れと今後の見通しについて、3日の理事会での判断に注目が集まる。

■ ユーロ圏: 消費者物価 (前年比)



注: コア物価は食料・たばこ・アルコール・エネルギーを除く
出所: Eurostat

■ ユーロ圏: コア消費者物価 (前年比)



注: コア物価は食料・たばこ・アルコール・エネルギーを除く
出所: Eurostat

■ ユーロ圏の消費者物価 (%)

	2021				2022											
	1Q	2Q	3Q	4Q	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	
消費者物価 (前期比)	1.3	0.6	1.1	1.5	0.2	0.2	0.2	0.3	0.6	0.3	0.2	0.7	0.7	0.3	—	
消費者物価 (前年比)	1.1	1.8	2.8	4.6	1.3	1.6	2.0	1.9	2.2	3.0	3.4	4.1	4.9	5.0	5.1	
コア消費者物価 (前年比)	1.2	0.9	1.4	2.4	0.9	0.7	1.0	0.9	0.7	1.6	1.9	2.0	2.6	2.6	2.3	
食料/アルコール/たばこ (前年比)	1.3	0.6	1.9	2.5	1.1	0.6	0.5	0.5	1.6	2.0	2.0	1.9	2.2	3.2	3.6	
食料 (前年比)	0.8	0.1	1.7	2.5	0.7	0.0	0.1	0.2	1.4	1.9	1.9	1.8	2.2	3.5	—	
アルコール (前年比)	0.4	0.3	1.3	1.4	0.4	0.6	0.2	0.2	1.2	1.3	1.3	1.4	1.2	1.6	—	
たばこ (前年比)	5.1	3.8	3.0	2.8	4.3	4.4	3.8	3.1	3.0	3.0	3.1	3.3	2.6	2.6	—	
エネルギー (前年比)	-0.6	12.0	15.8	25.7	4.3	10.4	13.1	12.6	14.3	15.4	17.6	23.7	27.5	25.9	28.6	

注: 消費者物価の前期比は季節調整後。コア消費者物価は食料・アルコール・たばこ・エネルギーを除く。出所: Eurostat

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

